

こやぎ
小屋木地区(南相馬市小高区) 【福島再生加速化交付金(農山村地域復興基盤総合整備事業(農地整備事業))】

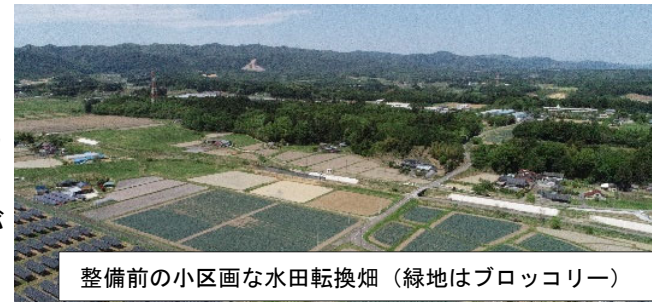
生産者の声 (有) ILOVEファームおだか (担い手法人)



原子力災害で一時休業を余儀なくされたが、令和元年に営農を再開した。小高区に根ざしたブロッコリー栽培100haを目指し小屋木地区の30ha畑地化整備に期待している。

地域の課題 水田転換畑における営農上の課題 / 排水性・作業性の低いほ場

- 畑作の規模拡大と営農上の課題
- ・ブロッコリーの生産法人が営農を再開したが、**経営耕地が市内各所に分散**
 - ・水田の転換畑では**作土層の確保**やほ場の**排水性**が課題となっており、**収量・品質が不安定**
 - ・ほ場が狭小であり、作業に必要な枕地(管理通路)の配置が十分に行えず、**大型機械の導入が限定的**



地区の目標

- 大規模な畑地への転換整備 (1.1ha→37.5ha) ブロッコリーや醸造用ブドウといった高収益作物の栽培
- 認定農業者の増加と集積の促進



事業の概要

- 事業工期 令和4年度～令和9年度
- 総事業費 21.2億円
- 受益面積 62.8ha (田:25.3ha、畑:37.5ha) ※畑地割合:60%
- 主要工事

| | |
|--------|----------|
| 区画整理 | |
| 内訳・整地工 | A=62.8ha |
| ・用水路工 | L=10.4km |
| ・排水路工 | L=10.2km |
| ・道路工 | L=12.2km |
| ・暗渠排水工 | A=62.8ha |

事業のポイント 水田から畑地への大規模転換 / 【人・もの・基盤づくり】一体的な事業推進

- 水田から**畑地へ大規模に転換し**、ブロッコリー生産法人の**経営拠点として整備**
- 併せて**人・ものづくり**を一体的に進め、「もうかる農業」を目指す

■ **基盤づくり** (畑地に関する取り組み)

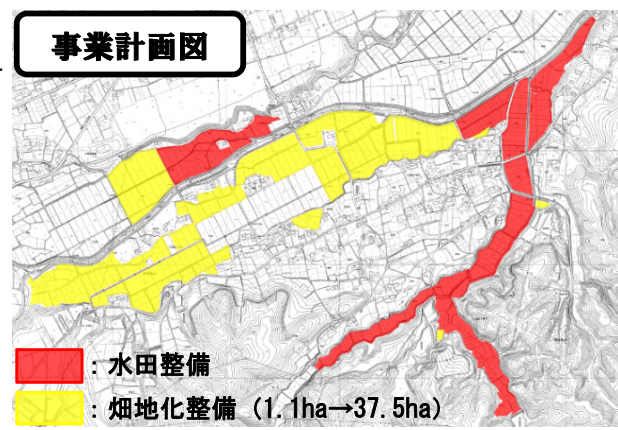
- ほ場を大区画化(最大で4.9haの畑)して作業性を向上
- 傾斜畑として表面水を迅速に排除し湿害を軽減
- 専用畑に向けた作土層を形成し、生育環境を改善

★ **人づくり**

- ・法人(2社)経営の高度化
- ・生産組織・個人の経営改善

● **ものづくり**

- ・高収益作物の導入と拡大
- ブロッコリー、醸造用ぶどう



事業の効果 大規模園芸団地の形成を推進(他事業との連携)

